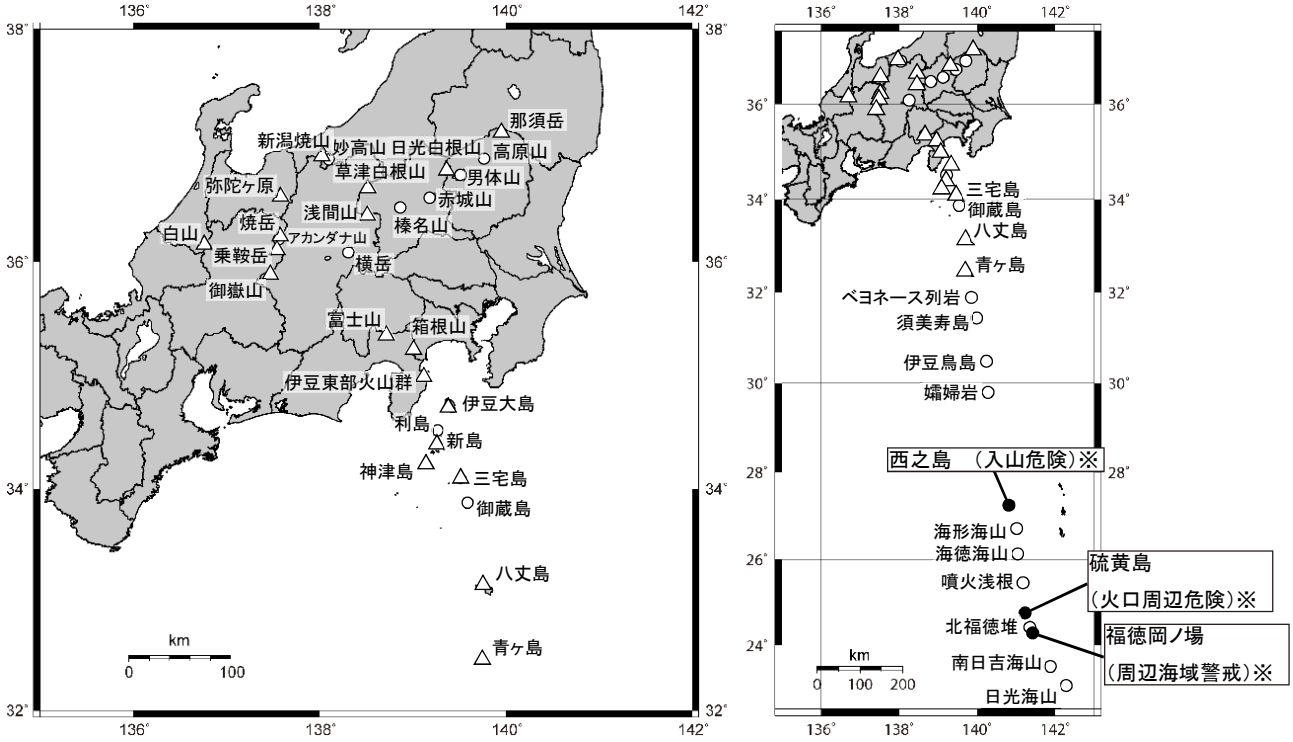
管内月間火山概況（令和３年８月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（８月 31 日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	入山危険	西之島※
	火口周辺危険	硫黄島※
噴火警報(周辺海域)	周辺海域警戒	福徳岡ノ場※
噴火予報	レベル１（活火山であることに留意）	那須岳、日光白根山、草津白根山（白根山（湯釜付近））、草津白根山（本白根山）、浅間山、新潟焼山、弥陀ヶ原、焼岳、乗鞍岳、御嶽山、白山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、新島、神津島、三宅島、八丈島、青ヶ島
	活火山であることに留意	高原山、男体山、赤城山、榛名山、草津白根山、横岳、妙高山、アカンダナ山、利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山

※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中です。



凡　例
噴火警戒レベル対象火山　▲：噴火警報発表中　△：噴火予報発表中
噴火警戒レベル対象外の火山　●：噴火警報発表中　○：噴火予報発表中

＊噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（令和３年９月分）は令和３年 10 月８日に発表する予定です。本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、関東地方整備局、中部地方整備局、国土地理院、海上保安庁、海上自衛隊、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、東京都、新潟県、長野県、岐阜県、神奈川県温泉地学研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

浅間山では、６日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から１（活火山であることに留意）に引き下げました。

福徳岡ノ場では、16 日に噴火警報（周辺海域）及び火山現象に関する海上警報を発表（切替）しました。

その他の火山では、予報警報事項に変更はありません。

那須岳［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

日光白根山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

草津白根山（白根山（湯釜付近））［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

地震活動は 2018 年４月の活発化前に比べて高い状態が続いており、湯釜付近浅部の熱水活動は継続していると考えられます。湯釜火口から概ね 500ｍの範囲では、ごく小規模な火山灰等の噴出の可能性がありますので、地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、湯釜火口周辺では火山ガスの噴出がみられ、その周辺のくぼ地や谷地形などでは高濃度の火山ガスが滞留することがありますので注意してください。

草津白根山（本白根山）［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

ただし、2018 年１月のように突発的に噴火が発生したことを踏まえ、今後も火口付近では、突発的な噴出に注意する必要があります。地元自治体の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

浅間山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］←６日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から１（活火山であることに留意）に引下げ

山体浅部を震源とする火山性地震は、６月中旬以降減少傾向がみられます。浅間山の西側での膨張を示すと考えられる傾斜変動はほぼ停滞しています。山頂火口からの噴煙量及び火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、５月以降概ねやや少ない状態で経過しています。

これらのことから、浅間山の火山活動は低下しており、火口から 500ｍを超える範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断し、６日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から１（活火山であることに留意）に引き下げました。

火口から 500ｍの範囲に影響を及ぼす程度のごく小規模な噴火の可能性がありますので、地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。突発的な火山灰噴出や火山ガス等に注意してください。

新潟焼山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

弥陀ヶ原［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

地震活動は低調で、火山活動によるとみられる地殻変動もみられませんが、立山地獄谷では活発な熱活動が続いていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。また、地獄谷付近では火山ガスに注意が必要です。

焼岳［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

山頂付近の地震活動は継続しており、GNSS 連続観測では山頂付近で緩やかな膨張が続いているとみられます。中長期的に焼岳の火山活動は高まってきており、今後の火山活動の推移に注意してください。

乗鞍岳［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

御嶽山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

噴煙活動や山頂直下付近の地震活動は緩やかな低下が続いており、火山活動の静穏化の傾向が続いています。

ただし、2014 年に噴火が発生した火口列の一部の噴気孔では、引き続き噴気が勢いよく噴出しています。状況によっては、火山灰等のごく小規模な噴出が突発的に発生する可能性があります。

噴気活動の活発な噴気孔から概ね 500ｍの範囲では、突発的な火山灰等のごく小規模な噴出に注意が必要です。

地元自治体等が行う立入規制等に留意し、登山する際はヘルメットを持参するなどの安全対策をしてください。

白山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

富士山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

箱根山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

地震活動は低調に経過していますが、GNSS の一部の基線ではわずかな伸びの変化がみられていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

また、大涌谷周辺の想定火口域では、活発な噴気活動が続いていますので、火山灰等の突発的な噴出現象に注意が必要です。

伊豆東部火山群［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

伊豆大島［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

熱活動は低調で、火山性微動は発生しておらず、火山性地震は少ない状態で経過しており、ただちに噴火が発生する兆候は認められません。長期的に継続していた山体の膨張は、2018 年頃からほぼ停滞していますが、これまでの膨張により地下深部にマグマが供給された状態にあり、火山活動はやや高まった状態にあると考えられますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

新島［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

神津島［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

三宅島［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

地震活動及び噴煙活動は低調で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も極めて少ない状態が続いていますが、山体深部の膨張を示す地殻変動は続いており、山体浅部の膨張を示すと考えられる GNSS の基線長で伸びの傾向が 2019 年４月頃からみられるようになりました。火山活動は徐々に高まりつつあると考えられます。また、主火孔の噴煙活動は弱いながらも続いており、火口内での噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、山頂火口内及び主火孔から 500m以内では火山灰噴出に警戒してください。

八丈島［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

青ヶ島［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

西之島［火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報］

気象衛星ひまわりの観測によると、14 日に噴煙高度が火口縁上 1,900ｍの噴火が確認されました。５日、15 日、16 日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、噴火は認められなかったものの、引き続き、山頂火口内に噴気や高温域が認められました。

火山活動は低下しているものの、山頂火口内に噴気や高温域が認められており、噴火が発生する可能性があります。山頂火口から概ね 1.5km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や溶岩流に警戒してください。

噴火浅根［噴火予報（活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

硫黄島［火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報］

GNSS 連続観測によると、長期的に島全体の隆起を示す地殻変動がみられています。また、硫黄島の島内は全体的に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。

火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では噴火に警戒してください。

福徳岡ノ場［噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報］←16 日に噴火警報（周辺海域）及び火山現象に関する海上警報を発表（切替）

13 日に海底噴火が発生し、高さ約 16,000ｍまで噴煙が上昇しました。海上保安庁が上空から実施した観測では、13 日、15 日に噴火を確認し、16 日以降噴火は認められないものの、活発な火山活動が継続していることが確認されています。

福徳岡ノ場の周辺海域では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石やベースサージ（横なぐりの噴煙）に警戒してください。また、噴火による浮遊物（軽石等）にも注意が必要です。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。